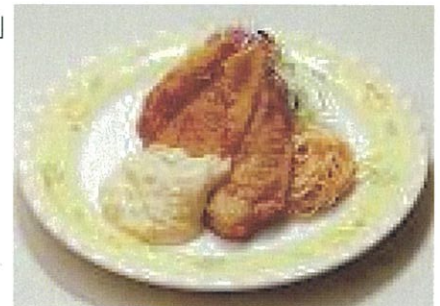


地域の公共交通の確保について“バスの利用促進”

宮崎県 延岡市

1 宮崎県延岡市の概要

延岡市は、九州の東側太平洋に位置し、人口約13万人の都市であり、来年、市制施行80周年を迎える。城下町として栄え、現在は、旭化成などの工場が立地し、東九州屈指の工業都市である。また、平成18年から19年にかけて、隣接する北方町、北浦町、北川町と合併し、九州で2番目に広い面積を有している。本市は、桃山時代から江戸時代初期に「天下一」の称号を与えられた能面を数多く所蔵しており、延岡城址での「天下一薪能」の開催や宗兄弟をはじめとするマラソンや柔道のオリンピック選手を数多く輩出しており、また、本市発祥の「チキン南蛮」によるB級グルメを活かした地域の活性化に取り組んでいる。



2 延岡市の路線バスの状況について

路線バスの利用者は、自家用自動車の保有率が高まるにつれ、年々減少を続けており、宮崎県内における唯一の民間バス事業者である宮崎交通（株）のバス利用者は、昭和44年の78,051千人をピークに、平成22年度には9,508千人とピーク時の約12%となっている。

こうした中、延岡市においては、平成17年度以降、10路線が廃止予定路線となったが、このうち6路線については、廃止路線代替バスやコミュニティバス・乗合タクシーの導入や既存の福祉バスの運行エリア見直し等により代替交通手段を確保した。

また、利用者の少ない昼間や土日を中心に減便が実施されたが、一部の路線では運行区間の見直しによる路線の充実が図られたところである。

延岡市内の路線バスについては、約90%が赤字を抱えながら運行しており、いかにして既存の路線バスを活かしながら利便性の高い交通体系を築いていくかが課題となっている。

(1) 延岡市地域交通計画の策定

このような課題解決に向けバスの利用実態調査やアンケート調査などを行い、現在の交通体系における問題点や改善点を抽出して、より利用しやすく効率的なバス交通再編の方向性を示した「延岡市地域交通計画書」を平成 19 年度に策定した。延岡市地域交通計画書では、バス路線を維持していくことを基本に、以下の事業に取り組んでいくことにしている。

① 交通空白地域への対応

地域内に病院や生鮮食料品などを取り扱う商店等がないなど、公共交通導入の緊急度や利用者ニーズ等により、導入効果が期待される地域において、コミュニティバスや乗合タクシーの試験運行を行っている。

② 合併した旧町におけるコミュニティバスや乗合タクシーの見直し

地域ごとに利用者が限定されていたり、運行回数や利用料金が異なっていたりするため、いずれの地域においても同じサービスが受けられるようコミュニティバスや乗合タクシーを有料の運行形態にしたり、利用料金の統一を図っている。

③ 利用促進・情報発信

路線図や時刻表の作成・配布、児童を対象としたバスの乗り方教室の開催など、バスを身近な公共交通として感じ、より多くの住民にバスを利用していただくための事業に取り組んでいる。

(2) 延岡市バス利用促進協議会

延岡市地域交通計画に基づき、バスの利用促進を目的に P T A や高齢者クラブ等の市民団体や商業団体、バス事業者、延岡市で構成した延岡市バス利用促進協議会を平成 20 年に設置した。以下の事業に取り組んでいくことにしている。

○ バスの時刻表や路線図の作成・配布などによる情報発信

バスの運行状況を住民に周知するため、全てのバスの運行時刻をまとめた時刻表の作成を行い、延岡市内の全世帯に配布を行った。これまでは、定期路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーごとに時刻表を作成していたが、一つにまとめることで、広くなった地域全体に気軽に出かけられる体制を整えていく。

○ 主要なバス停留所におけるベンチや上屋等の整備

利用者が多い主要なバス停留所に、雨の日や夏場の暑い日中にも快適にバスを利用してもらえるよう上屋やベンチを設置する事業に取り組んでいる。

○ 商店街等との連携による利用促進策の研究

バスを利用して商店街に買い物に出かけてもらうよう、また中心市街地への賑わいづくりに向けたバス料金の割引制度の研究に取り組んでいく。

○ バスの乗り方教室の開催

延岡市では自家用車の利用が多く、バスの利用が少ないため、路線バスの乗り方自体が知らない小学生が多い。そこで、バス事業者との共同事業として、バスをより身近な乗り物として親しみを持ってもらえるように小学生を対象としたバスの乗り方教室を開催している。また、地域住民からは、高齢者を対象としたバスの乗り方教室も開催してほしいという要望があがっている。

【バスの乗り方教室の様子】

参加児童には、クラス写真入りのバスカードを作成・配布することで、継続した利用につなげている。

宮崎交通の社員の説明内容

- バス停、時刻表の見方
- 車椅子の方の利用の仕方
- バスカードの利用方法
- バス料金の支払方法



バスの乗り方教室(11月18日～12月16日)

乗って残そう身近なバス

バスをより身近な乗り物として親しみを持ってもらうため、小学生を対象に「バスの乗り方教室」が市内7つの小学校で実施されました(バス利用促進協議会主催)。

教室では、宮崎交通株式会社の社員から、バスの乗り方や運賃の支払方法、乗車中のマナーなどを学んだ後、実際に整理券やバスカードを使って、バスに乗り込みました。バスの中では、バス料金の仕組みや降車を知らせるボタンの説明を受けた後、バスの整備工場などを見学しました。



乗って残そう身近なバス



運転手にマイクで行き先を質問する児童

参加した小学生からの感想

- 今度は、弟や妹と一緒にバスに乗って、バスの乗り方を教えてあげたい。
- いろんな景色が見られてバスに乗るのは楽しかった。
- バスの乗り方をいろいろと教えてもらった。バスが走っているときは、立ち上がらないようにしたい。
- 車椅子のスロープがあるのにびっくりした。足の不自由な人のことも考えて作られていてすごいなと思った。



授業の一環(社会見学)として開催
平成20年度～23年度
延岡市内 32校中15校 のべ 1,195人が参加

3 まとめ

バスの利用促進にはバスに乗ってもらうことが重要であり、延岡市ではバス利用促進協議会と一緒に他市の成功事例を取り入れて様々な事業を実施している。バスの乗車率が低迷している路線については、利用者のニーズを踏まえた運行ダイヤの改正を実施するものの、バスの乗車率は改善されていない状況が見られる。今後も試行錯誤を繰り返しながら、バス利用者の拡大を図り、バス路線の維持に努めていく。

また、高齢社会の進行を踏まえ、バス事業者と協力しながら持続可能な公共交通体系の構築を図っており、路線バスが運行していない公共交通の空白地域を対象にコミュニティバス、乗合タクシーを運行している。その中で、コミュニティバス、乗合タクシーの新規路線の導入や既存路線の運行時刻、運行経路の見直しを図るとともに、路線バスとの乗り継ぎを解消するため市街地へのコミュニティバス、乗合タクシーの延伸を検討している。今後、路線の延伸に伴い、路線の競合が予想されるが、利用の増加に努め、バス事業者との共存を図っていきたい。さらに、路線バスの再編について、バス事業者などの関係機関と一体となって地域の実情を踏まえた検討を行っていく。このような取り組みにより、延岡市の公共交通の活性化が図られることを期待している。